

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101151		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム太陽の里		
所在地	島根県松江市佐草町72-1		
自己評価作成日	平成23年10月15日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top/do">http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top/do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成23年11月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

介護福祉士も多く、認知症ケア専門士取得や認知症実践者研修受講など認知症の専門的な関わりが持てる。  
また、管理栄養士によるバランスの取れた献立での食事提供が行える。看護師もいるため健康管理も密に行える。  
法人には多くの事業所があり、様々な面での安心に繋がっている。  
誕生日には、その方の「想いを叶える」を念頭に自宅外出や外食等を実施している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設5年を経過し、食事や排泄に介助を要する利用者が多く、全職員で理念に基づいたケアをどのように提供すればよいか日々話し合い、工夫を重ねながら取り組んでいる。主治医、家族や関係者と連携を図りながら、意向に沿った看取りを行った。管理者は開設時から勤務し地域の方々や職員と共に話し合いながらより良い地域連携の在り方を積み重ねるよう努めている。地域活動も活発で公民館活動に参加したり、法人主催のふれあい倶楽部での学習会を通して交流するなど積極的に地域との連携に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは人々の幸せをお手伝いします。」の理念を作り、その人らしさ、幸せを考えながら実践している。また、毎朝職員が声に出して理念を復唱している。	全職員で話し合い作りあげた理念で、利用者の思いを汲み取る工夫をしながらその方の幸せを考え日々笑顔が見られるようケアの実践に努めている。朝礼で毎日確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の清掃活動に継続参加している。また「太陽の里便り」を地域公民館に配布し交流のきっかけ作りをしている。併せて、行事には近隣の住民の方々にも参加して頂いている。	夏祭りや花火の行事に近隣の子供達も参加している。法人主催のふれ合い倶楽部で地域の方々と共に学んだり、話し合ったりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ふれあい健康くらぶ」を開催し、地域住民・民生委員・福祉推進委員等の方々にも参加して頂き、意見交換や相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を継続しており、入居者様を交えた地震対策の勉強会など実施した。また、会議会場には入居者様の行事写真も飾り、報告と併せてご覧頂いている。	消防署員や他施設職員とも意見交換をし地域との連携を深めている。会議後利用者との交流の場を設けサービスの実際を理解して貰い、サービスの向上に繋がられるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも松江市の職員に毎回参加して頂いている。また、グループホーム部会にて松江市職員との意見交換の場も設けている。	相談したいこと、情報を得たい時は積極的に連絡を取り合っている。地域の活動は活発に行われていて、共に話し合いながら連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設のケアハウスとの共同会議等も開催し、マニュアルの見直しも実施、併せて法人全体研修や勉強会などで学ぶ機会を設け意識の向上を図っている。	全職員が共有できるよう研修会報告や事例をもとに勉強会で学び意見交換をしている。転倒の危険のある人には、家族の同意を得てセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、包括支援センターの職員による研修に参加している。また、虐待防止関連法についても職員が閲覧・確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については法人全体研修に参加している。また勉強会などでも伝達講習を実施、全員が確認する場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事業所の方針等を話し、入居に当たって不安が生じない様配慮している。契約時にも重要事項説明書を基に分かり易く説明し理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会に来られた際には、近々の様子なども伝えている。また、行事や運営推進会議等にも参加を呼びかけている。参加が出来ない方にも会議録や資料を配布して情報の共有化を図っている。	アンケートや意見箱で出た意見や要望は会議で検討している。日々の気づきや担当職員が送る毎月の便りで得た情報は申し送りノートで共有し、検討してケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書を活用し、提案が出た際には法人全体の管理職会議で討議して、改善に向けて取り組んでいる。 また、部署会議でも討議している。	毎月の全体会議で話し合い、待遇改善などの意見を出している。職員は年二回の自己評価や面談で忌憚のない意見を出し、管理者は運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者による個人面談を実施し、個々の職員からの意見・要望、悩み等を聞き取り、働きやすく、向上心が持てる職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体、部署でも年間研修・勉強会計画を立て様々な研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会にも参加し、同業者との意見交換・交流を図っている。また、運営推進会議に他のグループホーム職員にも参加して頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず職員が事前面談を実施し、安心される関係作りから始めている。その時々での本人の状況、また本人の思い等に配慮した関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始に至る前にもホームに来て頂き、ホームの雰囲気や様子を見ていただき話を聞く機会を持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、本人の思いや状況、また家族の要望からグループホーム以外の選択肢も提案させて頂いている。(ケアハウス、特養等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に応じた行事や日常的に季節を感じる事が出来るおやつ作り等、入居者様の要望も取り入れながら実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの行事にはご家族様も一緒に出掛けたりできる様に参加を促している。グループホームでの生活の様子を写真も交えながら毎月手紙にて報告させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方、知人の方の面会の頻度高く、継続して面会に来て頂きやすい様な環境づくりに努めている。また、手紙や電話などでも馴染みの関係が継続する様支援している。	親戚や近所の方の訪問が多い。定期的な外泊、外出を家族に依頼したり、隣にあるデイサービスや二階の高齢者優良賃貸住宅の昔馴染みの利用者の方々との交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方一人一人に担当職員をつけ、その職員を中心に想いを聴き寄り添える関わりを持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族の方に太陽の里便り、やすらぎの里通信を郵送している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝食の時間を決めず、その方の生活習慣に合わせた対応をしている。ご家族様に本人の好きなこと等の想いを聴きながら笑顔の促しやケアの取り組みを実施している。	日常的に思いや要望が言い易い関係づくりを心がけ、思いを汲み取るよう努力している。家族アンケート、利用者聞き取りアンケートや毎月の便りで得た情報はケアに繋げられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使っておられた道具(箸、茶碗、湯のみ等)やタンスなどを持って来て頂いている。また、仏具を持参している方もおられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定や排泄・食事摂取量のチェックを行い、一人一人の健康状態の把握に努めている。また、測定した時間も明記している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が担当の入居者様のケア目標を立て、具体的なケアの取り組みを実践している。また、定期的カンファレンスを行い、計画・目標に沿ってモニタリングを実施している。	担当職員がケア目標を立てている。職員の日頃の関わりの中での気づきを出し合い、家族とも話し合っって介護計画を作成している。定期的に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを作成。カルテの特記事項には日頃の会話から身体状態まで記入し、出勤時には全職員が目を通して見ている。また、個人別改善策・対応策を作成活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携もあり、入居者様が重度化した場合や、看取りの段階まで対応できる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域には防災協定もあり、民生委員・消防署との協力体制があり安心して過ごせるよう努めている。また、地域資源の把握、情報収集にも努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診、総合病院への受診(定期・緊急・紹介状等)等適切な医療が受けられるように関係を築いている。また、主治医との連携に「受診連絡ノート」を作成・活用している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は家族に依頼しているが要望があれば職員が付き添うなど支援している。受診ノートで情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、日常的に関わりを持っている為、小さな変化でも相談できる体制である。また、夜間でも対応できるよう緊急マニュアルも整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適切な情報提供を行い、安心して治療に専念できる様支援している。カンファレンス等にも積極的に参加し状況確認も密に実施しており、医師・看護師・ご家族とも定期的に連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を立て、ご家族の方にも説明・同意を得ている。入居者の方の状態に応じて主治医とも連携を図り、関係者にてカンファレンスを実施している。	入居時契約書を交わしているが利用者、家族の要望があれば看取りを行う方針もある。一例の看取りを経験した。意向に沿った支援が出来るよう利用者、家族や関係者と話し合いながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習Ⅰを受講して知識を得ている。AEDも法人に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いの基の防災訓練の実施をしている。運営推進会議でも地震対策の講話をして頂いた。また、地域の防災協定もあり定期的に防災訓練を実施している。	年二回避難訓練をしている。地域の方々と地域防災協定に基づき避難場所の確認を行ったり、運営推進会議で消防署員と地震対策について話し合い、具体的な対策を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や排泄の失敗時など自尊心に配慮した声掛けを徹底している。個人情報の取り扱いについては使用目的別に説明・同意を得ている。	日々の生活で一人ひとりを尊重した言葉づかい、対応に心がけている。職員同士気づきを伝え合い、利用者の気持ちを大切に考えてケアするよう確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞き、出来る範囲で叶えられるよう支援している。日常的に自己決定の場面を持つよう配慮している。日常の仕事についても本人の意思で動かれるまで見守る支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が可能な限り自分のペースで生活出来る様見守り支援している。日常生活の中でも自分のしたい事、好きなことが一つでも出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回外部業者にて散髪をし、本人の意向に添える様整髪、毛染めなどを行っている。また、ご家族様により散髪される方もおられる。ボランティアによるメイクやハンドマッサージも定期的実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人の嗜好の把握に努めている。また、盛り付け、食器拭きなど出来ることを共同で行っている。食事形態もミキサーや刻みなど本人の状態に合わせて工夫している。	食事介助を要する方が増え食器など工夫して自立支援をしている。食事は併設施設の厨房で作っているが、季節の果物や好みの品を添えたり、おやつを共に作ったりして楽しく食事が出来るよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量を記録しており、食事が少ない時には食事形態の工夫や嗜好に合わせての食事提供をしている。また、主治医・管理栄養士と相談の上、栄養補助食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おやつ後に口腔ケアを実施している。歯間ブラシやクルリナーブラシも活用し個々の支援を実施している。口腔ケアの実施状況も個人カルテに記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導だけでなく、排泄チェック表や本人の動きなどでの誘導も適時行っている。また、トイレでの排泄や自然排便が出来るよう排泄リズムの把握に努めている。	排泄パターンをチェックしてパターンを把握し、声かけなど工夫しながら出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している。紙オムツから布オムツになった人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を活用したり、水分補給を密に行っている。また、トイレ時に腹圧マッサージやウオッシュレットを活用し排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	中には、最低限の入浴を確保するために曜日を決めている方もいるが(パウチ・フレンジ交換がある為)基本的には本人の意向も聞きながら入浴時間を設けている。入浴時にはコミュニケーションにも力を入れている。	不眠、失禁など状況に応じて夜間やその都度対応している。入浴や洗髪拒否のある方は、時間をずらしたり、シャンプーハットを使用したり対応を工夫するなどして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整も密に行い一定に保てるよう支援している。また、車椅子の方が長時間座位にならない様定期的に臥床介助している。臥床の際も体勢に合わせてクッションや枕を挟んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個々の飲み方(手に乗せる・口に入れる)に合わせて服用して頂いている。お薬情報のファイルがあり、変更時には申し送りノートにも記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんで頂いたり、食器拭きをされる方もいる。重度化している方には、職員が起床時に仏壇と一緒に拝む等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、近隣のスーパーや売店に行く機会を作っている。また、グループホームの行事で外出することやご家族様に連絡し、外出して頂く事もある。	希望に沿って散歩したり、花屋や喫茶店に出かけている。家族と共に弁当を持って季節を楽しむ遠足に出かけることもある。誕生日は思いを叶える日とし、遠方の生まれ故郷に一日かけて出かけるなど希望に沿った支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様がお金を管理している方もおられ、外出先などで自ら選んだ物を支払う事もある。 また、夏祭りなどでは、全員にお金を持って頂き支払いをする機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった際には、本人様の携帯電話にて会話が出来るよう支援している。また、手紙なども出せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールやトイレなど毎日掃除している。ホールには季節の花などを飾り季節を感じて頂けるようにしている。温度計を参考に温度も一定に保ち心地良い空間を目指している。また、危険物(刃物・洗剤等)のチェックも毎日実施している。	明るいホールには、家族と共に食事出来るソファと机が置かれ、炬燵のある畳スペースもある。季節の花や写真が飾られている。安全、清潔にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳スペースがあり、談話をしたり昼寝が出来る場所がある。冬場にはこたつも出し、季節も感じて頂ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具などを持って来て頂いており、居心地のよい部屋作りに努めている。また、居室内に外出時やご家族様の写真を貼っている。	使い慣れた家具が置かれたり家族や、誕生日の思い出の写真が飾られている。花が生けてあったり趣味の書画が飾られていたりしてその人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどに「便所」等掲示し分かり易くしている。また廊下には手すりが付いており移動しやすい環境になっている。		